

女子 慰安旅行 女子

例年の慰安旅行は1個所のコースを一括ないし2班に分けて行くのですが、今年は北海道と韓国と行き先を2つに分けそれぞれ各々が行きたい方のコースに参加するという今までに無い新鮮味のある慰安旅行となりました。

韓国

5/25朝9時半に名古屋空港を発ち、約2時間後にはお隣の国、韓国に降り立ちました。にんにくの匂いがぷんぷんするのは、と身構えたソウル空港はさほどでもなく、ガイドの朴さんの流暢な日本語でソウルの街を見学し、ブルコギ、石焼ビビンバ、キムチなどおなじみの韓国料理を堪能しました。日本と似ているな、と油断していると目の前にハングル文字が立ちはだかり、やはりここは異国だと思い知らされます。2日目は終日自由行動。皆、事前に練ったプランを思い思いに楽しみ、翌日正午の飛行機で帰国しました。同じ時間を一緒に行動するのも楽しいですが、別々に過ごした自由時間の出来事をお互いに聞き合うのも、また格別楽しいものです。吉川さんにも毎度添乗でお世話になり、ありがとうございます。

帰国後は、北海道旅行組と思い出を交換し合い、2倍楽しいモーリンググループの2000年慰安旅行でした。



北海道といえばやはり海の幸、着いて早々小樽で評判の「一心太助」へ美味しい海の幸を食べに行きました。私はイクラ丼を食べたのですが、他から鮭がまわってきたのでイクラと一緒に食べてみたらとても美味しかった、これこそ親子丼！それに刺し身も美味しかったです。お腹一杯に海の幸を満喫出来、食いしん坊の私も大満足でした。

次の日、レンタカープランにて海や山・湖と各自決めたコースを探索し、アイヌの文化等に触れ合い、文化の違いを肌で感じ、又名古屋では決して味わうことの出来ない大自然にも触れ、特に大自然の中の温泉はこの辺の温泉とは一味も二味も違い、日頃の疲れも一度に落ちるような感じがしました。

北海道

最後に寸志を頂いたメーカー様及びお客様、この場を御借りしてお礼申し上げます。本当に有難うございました。

旅行委員一同

“ <http://www.morimatsu.com/> ”

「結婚式のイベント化」

最近、毎週結婚式に出席しています。結婚式と披露宴に参加して感じた事は、結婚式がショー化していることです。

披露宴は派手に騒いでも、イベント化しても結構だが、結婚式は、おごそかに厳粛な儀式で挙行して欲しい。

近頃の言い方・呼び方でこの結婚式のことを、教会式結婚式と若者呼ぶ。

キリスト教式・ギリシャ正教式・ユダヤ式でもない：訳の分からない「教会式結婚式」と言います。(凶皆式ではない)

家と家の縁よりも、新郎・新婦二人の結び付きに重点を置く結婚式を、私は映画で見ただけで、本物を見た事がないので、教会式を欧米風と呼ばせてもらいます。

大陸や多民族国家内の結婚式となると、欧米風の二人中心の結婚式もやむおえない事かもしれません。宗教・民族・習慣が違う地域での結婚式なら理解できない事では無いのですが、私、個人的には神前か人前結婚式が好ましいと思っています。

商売上手なブライダル業界の頑張り・努力とナニ教か解からない牧師モドキ・タレントさんの演出効果、そして日本仏教界や神社の宮司の手抜き・やる気の無さが今日の結婚式に表れている。総理大臣が、日本は神の国と言っていたではありませんか？ガンバレニッポン！！

帰宅後、結婚前の息子と娘に宣言しました。「欧米式結婚式には出席しません。我が家は親子の会話が少なくなり、家庭崩壊・親子断絶状況が近づいているのかな？よその家より足元が心配だなあ。」

森 信之

モーリンワールド

「猫」

1年前、娘が後足が付け根から折れ、やつれた野生の子猫を拾ってきた。いきなりのことで何をしいいやら、後ろ足はぶらぶらで、やせこけているわりに愛嬌はいい。人懐こく何か必死で生きようという感じが伝わってきた。



まず、病院へ連れて行き足の骨の手術、うまくつながらないかも知れないとの不安も3週間ほどで無事完治。6ヶ月が過ぎこんどはサカリがついて毎夜ぎゃおぎゃお、たまりかねて避妊手術、1週間入院、退院後やつと静かになる。

猫を連れてきた時、誰が面倒見るのよ！と反対した女房、私が見るわよ！と娘、みんなで見よう！と私、結果、私と娘は勤めに行き面倒なんて見れるわけがない、結局女房に一任、たかが猫1匹、しかし育てることは大変、出来もしないこと言わないほうがいいと反省。気まぐれな猫に女房は少々疲れ気味。私自身夜遅くに帰った時、猫だけが玄関に迎えてくれると、ほつ、とするがなにかさみしいような気も…

今や、すっかり家族の一員、我が家にとって色々な面で大きい存在になっている事は確かです。このまましばらくは猫中心の生活が続きます。



坪井 秀夫

喜怒哀楽

「親バカ以上…」

先日、当社服部夫妻の結婚式、披露宴に参加させて頂きました。すくなくいい結婚式でした。新郎新婦の人柄が随所に出ていて、言葉一つにしても態度にしても本当に感動的でした。本当に良かったな。

披露宴に呼んで頂いた時、独身時は「早く自分も結婚したい」とか思いましが今回は親の立場、娘が結婚して行く過程に対して自分はどう対処するのかと考えさせられました。ちなみにわたしの娘は3才です。(親バカです)

披露宴から帰ってきて、娘をながめながら「あつ松嶋奈々子に似ている」と思い、次の日義父に電話をして「あやは、松嶋奈々子にそっくりや」と言いました。義父はそしたら写真を撮ってすぐに送ってくれ」というのでその日に撮り速達で写真を送りました。その写真は、何回も表情を変えさせ10枚くらい撮った中の取っておきの1枚です。

次の日電話が有り、義父曰く「これは、松嶋奈々子以上や」ということになり、その写真を引き伸ばしに行くわ、写真立てをダンボールで自分で作り、写真立ての表面の透明フィルムは、わざわざ夕食をコンビニのお弁当にし、そのお弁当の蓋がよく透明のフィルムのタイプがあるではないですか、お弁当を食べるから、その蓋であるフィルムを切り取り写真立ての表面材として使い完成したようです。(誰かこんな義父に、PVCの透明シート送ってあげて下さい)

私の「親バカ」以上の「じじばか」娘が結婚する時この2人はどうなってしまうのか、2年後の「波紋」をお楽しみに。その前に「松嶋奈々子」を見たい人は東京営業所までどうぞ、お待ちしております。



黒松 康郎



暮らしのエッセイ

「ワクワクするホームページ」

初めて買ったパソコンで、インターネットをはじめから8年になります。

8年前はプロバイダー(接続業者)もたいへん少なく、関東地方にしかアクセスポイントがありませんでした。本屋さんに行ってもインターネットの本はまったくなく、パソコンショップに行ってもパソコンでの通信のわかる店員さんは、たいへん少数で、「eビジネス」の今では考えられない状況でした。

8年前、私をワクワクさせたホームページとして記憶しているのは、ロンドンの学生の作ったホームページでした。彼の所属する研究室に実際に置いてある鉄道模型をインターネット経由で操作するというものでした。ロンドンにある模型列車が、日本にいる私の指示どおりに発進・停車・バックをするのです。時間によっては画面の端に、学生たちの授業の様子も映ります。そのとき模型を操作すると、近くの学生が「？」と振り向く様子まで見えるのです。ロボット遠隔操作の研究室でした。

情報の豊富なホームページは、それはそれで利用価値があります。誰もが発信者になれるし、いつでも見れるし、情報の更新もできます。「ホームページ」ですから、その数はますます増えていくでしょう。情報価値の高いホームページもそれに比例してもっと増えるでしょう。しかし、もっともつと、ワクワクするホームページが増えていかなないと、子供たちにとってインターネットが学校で触るものに終わってしまうような気がしてなりません。



西口 悦史

「学校でインターネット教育」ということを聞かされた時に、そんなことを思います。

読書感想文

「不況でも笑いのとまらない店の謎」を読んで

この本を読んで、何かをしようとする時はまず、自分を信じるのが大切であると思いました。仕事をする時も、目標を掲げ、期間を決めできる様に努力する。それをするにも、自分を信じていなければ目標も決められないですし、努力することも出来ません。この本で紹介されていた会社も、店舗の拡大や社会への貢献などの目標を明確にされていました。「念ずれば花開く」以前に朝礼のビデオ鑑賞会でも、おっしゃっていました。「自信を持つことで姿勢が変わる。」と。本の中でも、株式会社ダイアナの大原氏は「自分を信じるのです。その基本は勇気。勇気は機関車、自信は客車です。勇気を持ってやってみる。それが成功する。成功すると自信となって、さらに自分を信じるエネルギーになるのです。」と言っています。出来ると思わなければ、できない。

「しない」と「できない」は違う。「できない」は何でもする前から諦めるのではなく、1度やってみれば努力することが覚えられ、もう少し頑張ってみようという気持ちも出てきます。しかし、「しない」は、始める前から終わってると思っています。私は、始める前から終わらせたくありません。もし出来ないことがあれば努力する、それでも出来なければそれは仕方のないことかもしれません。人間には向き不向きがあるのですから。しかし、何かする前から「ダメだ、自分には出来ない」と思うと、そこから前には進むことは出来ない。何も気持ちを感じられなくなります。

まずは、自分には何が出来るのか、どうすればいいのかを考え、今出来ることをする。そして、だんだんと可能性を広げていく。初めから全てをこなすことを考えると、自分の限界を超え迷惑をかけかねないので、少しずつ確実に出来ることを増やしていきたいです。

そしてもうひとつ、モノは、売るだけではないけない。その後のアフターフォローが大切であること。売りっぱなしでは、いずれダメになってしまうことです。

売っている自分も、別の面から見れば消費者なのですから、自分が買った時、どう思うか、少しでも良いものを買いたいとか、同じモノなら少しでも安い方で、サービスのいい方で買いたいとかいろいろなることを考えます。だからこそ、売る立場になった時に、そういう事を考えたいと思います。良いモノを消費者のニーズに合わせて提供出来ることが社会貢献にも繋がっていく。と思いました。

ただ良いモノを売るだけではなくて、買った人、買いたいと思っている人へのサービスの心をわすれてはいけないのだと思います。サービスにもいろいろあると思いますが、少しでも多くの人が喜んでくれる様にしていきたいと思います。

中村 真由美

上海的生活

先日、日本に帰る機会がありまして、数ヶ月ぶりに日本の空気を吸う事ができました。日本は、というか地元名古屋の話ですが、人も適度に少なく、何よりもたびたび帰ってきても思っているのは、ここが日本であるという事で非常に気分が落ち着きます。これはやはり名古屋が私の故郷だということでしょうか。また、日本滞在期間中は、中国の仕事の雰囲気とは違いますが、森松の雰囲気を感じ取ることで、上海をいれなおしました。

上海も開発に次ぐ開発で変化の早い都市ですが、細かい変化というものはどこでも起こるもので、地元の町並みを歩いてふとこれまで無かった建物や商店に気づくことで海外での生活で時間がたつたことに気づきます。自分自身の考え方から行動までかなりの影響を受けていることなのでしょう。日本にいるだけでは自分が日本人であるという事を考えることが無いので、離れることによって初めて自分の土台が見えるというのには周りが全て同じ日本人の日本では当然のことです。

森松も四川省成都に合弁会社を構えたことを初めとして、アジアから世界を見据えた商売というのはいずれの課題です。そのとき如何にうまく商売するか、すなわち相手国を理解するかということ、まず自分たちがどういうものかを知ること、言い換えれば相手との違いを知ることです。私もこれからはもっと勉強させてもらいます。



森 直樹

2000年

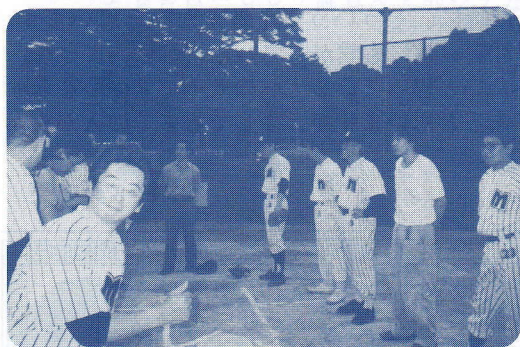
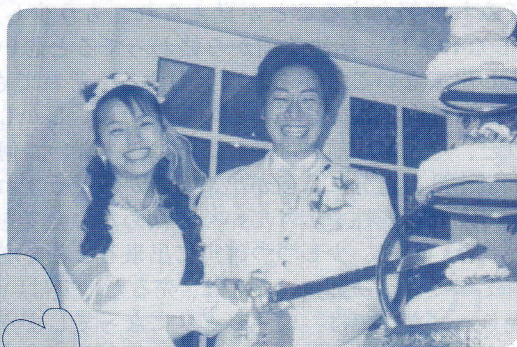
7月の予定



1日(土)	第一土曜日休み
3日(月)	黒松さん誕生日
5日(水)	キックベースボール 18時30分～ 丹後球場
6日(木)	I・S・O・T文具展 ビッグサイト
7日(金)	中国情報会 18時30分～ NHK21F
8日(土)	第二土曜日休み
11日(火)	誕生会
13日(木)	日中関係学会 13時00分～16時30分
15日(土)	第三土曜日休み
17日(月)	改善会議 18時00分～
18日(火)	西脇さん誕生日
20日(木)	海の日
24日(月)	経営会議 7時30分～
	営業会議 16時30分～
25日(火)	編集会議 17時45分～
26日(水)	谷澤さん誕生日
27日(木)	西部会 時局19時00分～ 不二パーク
28日(金)	生産会議 18時00分～
29日(土)	第五土曜日休み

おめでとう！服部さん・石川さん

6/3(土)横山ご夫妻の晩酌人により、服部さんと石川さんの挙式・披露宴が晴れて行われました。披露宴には社内から多くの出席もあり、大盛り上がりで、二人の門出を祝福しました。6月の花嫁は幸せになるといいますので石川さんお幸せに！花婿さんは「幸せ太り」に要注意！



⊙ 野球・伝統の一戦 ⊙

6/5(月)18:30より20:30まで、「伝統の一戦!」「宿命のライバル?」「これぞ・草野球」の闘いが行われました。はじめは、日頃の忙しさの為、人数不足が心配でしたが、試合開始前には、多くの方がグラウンドでキャッチボールを始めており、プレーボールからゲームセットまで、笑いの絶えない「熱闘」が繰り広げられました。

編集後記

慰安旅行ですが、私は近くて遠い国「韓国」に行つてまいりました。そこでカルチャーショックをいくつか受けたのですが、その1つに徴兵制がありました。ソウルの街のいたるところに兵隊さんがおり、このくそ暑いのに、かわらずこちらを睨んでいて、ピクリとも動かない。またあるところでは、兵隊さん約200人が街中で今にも戦争をおさんとばかりに、ヤーヤーと決起集会みたいのを開いている。ガイドさんに聞くと、これは「日常茶飯事なことである。そう、韓国が日本にも戦争を仕掛けてきたらこりゃいかてないわなあ!」と、思った次第であります。他にもカルチャーショックを受けたのですが、どれもこれもただ単に情報が入ってこない、このことが韓国を近くて遠い国にしているのではありませんか、と私は深く確かめに、私はまた韓国に行きたい!と思った次第であります。



谷沢 享